

成果報告

1. 学校名：和歌山県 那智勝浦町立 下里小学校
2. 活動テーマ名：『もっともっと、ふるさと"那智勝浦""和歌山"の海を知ろう！』
3. 実践の概要

本校は、児童数96名（家庭数74）の当地方では中規模の小学校である。校区は、海岸線に面し漁港、海水浴場、磯場、ウミガメが産卵する浜辺を有し恵まれた自然環境の中にある。しかし保護者の就労先は、水産養殖種苗センター、漁業協同組合、水産加工、がそれぞれ1名ずつと、子どもたちの社会的な海とのつながりは決して高いとは言えない。加えて遊びの変化など子どもたちが海と親しむ機会は減少する一方である。恵まれた自然環境や生命の多様性、産業を理解すると共に多様な体験活動を行って、知識、思考力を高め、未来の地域・社会を担う人の育成を目指している。

実践内容については、長年にわたって本校において行われてきた所謂伝統的な活動もあれば、本年度初めて実践する試験的な意味合いを持つ実践もある。いずれも本校の児童の状況や地域の特性という要素と海洋教育の目的という二つの点で合致していると判断して実践した。また、その内容については本州最南端に位置し黒潮の影響を受ける海に面している点を活かす実践やマグロの水揚げ日本一という町の産業に関係する実践を行い、地域性豊かな教育実践を展開した。

4. 実践計画

①テーマ、概要・活動計画、教科等との関連

活動テーマを『もっともっと、ふるさと"那智勝浦""和歌山"の海を知ろう！』と設定し本校が立地する紀伊半島南部の海岸線という地域性を活かした活動を全学年に渡って展開した。

また、昨年度の実践では『海の時間』と『各教科』の学習内容の関連性を高めて指導計画を立てた。実際の指導方法としてはクロスカリキュラムの形態を執りながら各教科の履修内容に応じた『海の時間』の体験学習を展開した。今年度も昨年度の実践の成果を検証し、より教育効果の高い実践を行うことを課題とした。具体的には担当者間で連携、情報を共有しながら計画の立案、実践に取り組むこととした。

平成30年度の実践計画<事業計画申請分>は以下の通りである。

1. 『紀の松島巡り』への乗船体験（1・2年生）

地元観光船の乗船体験を行う。日常では、海から陸の景色を見る経験が無く、また、綺麗な景色が観覧できる本船にもほとんど乗船経験が無いのが実情であることから、実際の海原に出る体験を早い時期に経て、今後の海洋教育のスタートとなるように位置付けている。

2. 『くじらの博物館』（太地町）の学習プログラム体験（3・4年）

隣接する太地町は、捕鯨で有名な町であり、博物館見学・学芸員による指導を受けることは貴重な体験である。理科で学習する「生物の体の仕組み」等も含めて指導を受けるとともに、直に触れ合う体験プログラムも入れて、五感で学ぶ学習となることを期待している。

3. 『まぐろ体験CAN』での体験活動（5・6年）

この施設は、勝浦漁港に水揚げされる新鮮なマグロを使用した水産物の加工体験施設である。ここで「干もの作り体験」「缶詰作り体験」の体験プログラムを実施する。施設横の勝浦漁港は生マグロ水揚げ日本一を誇っている。その地元の名産であるマグロの加工体験は、高学年において産業や町の歴史を学ぶ中で欠かせないものとする。ひもの加工と合わせて、地元の水産加工や働く人の思い・願いについて、実体験を通じて学習を展開する。

4. 地元のウミガメ保護団体の指導による、ウミガメ保護活動(5年生及び全校児童)

地元のウミガメ保護団体の指導の下、ウミガメの卵の孵化から放流までを児童（主に5年生）が中心になって飼育観察する。また、「ウミガメの生態」や「ウミガメ保護活動をする思い」を地元住民から学ぶ。

5. ラムサール条約に登録されている串本町でのシュノーケリング体験（5・6年）

昨年度（平成29年度）から取り入れたプログラムである。本町の海と全く異なる海中の景色を体験し、改めて海の大きさ・自然の不思議さを実感する。

6. JAMS TECによる出前授業の実施（4～6年生）

海洋研究開発機構（JAMSTEC）からの講師派遣を受けて、学習を行う。

当地方では、最先端の情報・技術に接する機会が限られていることから、出前授業の機会を通じて学習を深めたい。（現段階ではテーマは未定である。）

7. 学習後の感想・レポートの記述（継続）

多彩な地域学習及び体験活動を通して、“海”“ふるさと”について学年に応じた考えさせたい。そして、感想・考えたことなどを文章化し、それをまとめたものを施設・業者の方々に返していくことで、“海”という題材を通じた“人”の繋がりを太くしていきたい。

また、このプログラムで学んだことは、教科内容と結び付けていくことを意図的に行い、実践後にも改めて教科とのかかわりを評価・修正していくことを試みる。

②実践の評価について

各実践について、各学年単位で各事業終了後、担当者、管理職を含めて事業計画に照らし合わせ教育効果、対費用効果、安全性等について評価を行い実践の妥当性を検証することとした。また、教育効果については児童の成果物、感想、教科指導時の反応や習熟度等を元に総合的に評価することとし、できる限り客観性を保つよう配慮した。

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

【変更点】

1. 「アカウミガメの卵の保護及びふ化したウミガメの放流」については、現状の子ガメ放流活動がウミガメの生態に即したのものではなく、個体保護の観点からはその実効性が認められないという評価が一般的になりつつある。この点から飼育期間を延長し、生存率の向上が見込まれる幼体になるまで飼育することとした。ただし、飼育に関する知見が乏しく試行として取り組むこととした。
2. 「JAMSTEC 職員による海についての講話」は職員の勤務日程と学校での学習のタイミングで調整がつかずキャンセルせざるを得なくなり今年度も中止とした。
3. 「紀の松島巡り 乗船体験」については昨年度末の総括会議でより学習効果の高い「海中公園見学」へと変更した。

【追加】

4. 海洋集会の実施

フィールドワークの成果を発表する機会として、児童が主体で行う海洋集会を行った。フィールドワーク各グループの6年生が、岩礁帯で採集した海洋生物について調べ学習を行い、全校児童にポスターセッションを行った。

②実践の成果

1. フィールドワーク（岩礁帯の海洋生物観察）

- ①実施日・学年：4月27日（金）全学年
- ②活動内容：事前学習を行った後、校区内の岩礁帯で海洋生物の採取・観察を行った。エビ、カニ等を採取、海洋生物の多様な形態の観察を行った。
- ③成果・課題等：生物種について採取と同時に同定を行った。小型の生物については学校で一時飼育を行って観察した。

2. ウミガメ保護活動

①実施日・学年：5月～ 第5学年

②活動内容：

5月26日（木） リップルズクラブ 湊 氏 ウミガメについての講義

7月 2日（月） ウミガメの卵104個を学校敷地内のふ化場に移設。

7月20日（金） 湊氏が太地町で保護したウミガメ（成体）を全児童観察

7月21日（土） 第2回卵移設 リップルズクラブふ化場に93個移設。
夏季休業中のため児童は任意参加。

8月21日（火） ウミガメ飼育槽製作（職員作業）

8月24日（金） 仔ガメ砂から脱出・保護

9月 6日（木） 仔ガメ放流（4，5，6年生） 仔ガメ（6匹）1年飼育
開始

9月14日（金） リップルズクラブ保護仔ガメ放流。5年生児童任意参加。

③成果・課題等：ウミガメの保護活動への協力を通して、ウミガメや環境保全についての関心を高めると共に飼育活動から自主性も高まった。観察記録を元に壁新聞を作成・掲示した。児童の視点から見た生物に対する愛情や生命への畏敬の念が感じられる成果物となった。

3. 大浜クリーン作戦

①実施日・学年：5月15日（火）全学年

②活動内容：校区内の砂浜で漂着物の撤去しウミガメの産卵場所を確保すると共に環境保全活動を行った。

③成果・課題等：地域のウミガメ保護団体の方の指導の下、海岸漂着物の撤去を行い児童の環境保全に対する意識を高めることができた。

4. 海の船の絵写生会

①実施日・学年：5月9日（水）第5，6学年 5月18日（金）第3，4学年

②活動内容：図工の絵画制作として勝浦漁港で船舶の写生を行った。

③成果・課題等：近隣地域の地形や漁業を身近に感じる体験となった。

5. 海の教室「串本海中公園見学」

①実施日・学年：9月26日（水）1，2学年

②活動内容：海洋生物について水族館での観察を通して、生態や特徴について知識を深めた。海中展望台で実際の海中様子を観察、水族館バックヤードの見学等、多彩なプログラムを実施した。

③成果・課題等：普段は見ることができない海中の様子や海洋生物の生態について学芸委員の説明を受けながら見学することで多様な角度から知識を深めることができた。

6. シュノーケリング体験学習

- ①実施日・学年：6月29日（金）
- ②学 年：第5、6学年
- ③活動内容：串本町にてシュノーケリング体験学習を実施。自分の力で海中の様子を観ることで、地域の海中の生態系について理解を深めた。
- ④成果・課題等：非常に貴重な体験となったが、同時に安全確保にも細心の注意が必要である。6年生は昨年の体験を活かし、落ち着いてシュノーケリングと観察を行うことができた。

7. 海洋集会

- ①実施日・学年：6月26日（火）全学年
- ②活動内容：フィールドワークの観察結果を6年生がまとめ、全校児童を対象にポスターセッションを行った。
- ③成果・課題等：6年生が班別にポスターセッションを行うことで表現力や説明力を身につける機会となった。

8. 全校児童海水浴

- ①実施日・学年：7月18日（水）全学年
- ②活動内容：校区内にある海水浴場で縦割り班による水泳実習を実施。
- ③成果・課題等：集団行動における規律や協調性を高めると共に地域の豊かな自然環境を時間することができた。

9. ダイビングインストラクターによる講演

- ①実施日・学年：12月7日（金）Ⅰ部 第1、2学年、Ⅱ部3、4学年
- ②活動内容：低学年、中学年単位で教科（国語等）の教材と関係する海棲生物の話聞いた。具体的なイメージ化を図り教材への関心を高めた。

10. くじらの博物館見学

- ①実施日・学年：7月17日(火)第3、4学年
- ②活動内容：太地町立くじらの博物館にて館内見学及びふれあい体験学習を行った。学芸員からはほ乳類としてのくじらの特徴についての話を聞き、ふれあい体験学習では、水中のイルカに直接触れ生体の特徴を体感した。
- ③成果・課題等：学芸員と打合せを行い、教科（理科）学習の内容に沿った話を聞くことができた。

1 1. 海産加工品づくり体験学習

- ①実施日・学年：12月14日（金）午前中 第5学年， 午後 第6学年
- ②活動内容：「マグロの缶詰製作」（6年生）「干物づくり」（5年生）の実習を行い水産加工業について実体験する。

1 2. 海洋教育研究授業

- ①実施日・学年：平成31年1月17日(木)第2，5学年
- ②活動内容：東京大学海洋アライアンス 海洋教育促進研究センター 特任研究員 川上真哉 氏をゲストティーチャーとして迎え2年生海洋教育「チリメンモンスター」の観察、5年生理科「流れる水の働き」の研究授業を参観する。授業後、全職員で海洋教育についての講義を受ける。

○全活動を通して

昨年度の実践を踏襲した内容の活動もその経験を継承することで、より円滑にかつ内容の充実を図ることができ、取組を発展させることができた。また、新しく企画した取組として『ウミガメの1年飼育』は想定外の事態が多発して予想以上に難航したが、最終的には軌道に乗り活動を継続することができた。海洋集会では、緊張しながらもしっかりとポスターセッションを行う児童の姿が多く見られた。これは、児童の主体性と表現力の育成という本校の教育研究主題に合致する結果となり、今後の取組の参考例となった。

今年度の活動からも海洋学習が児童にとって身近な学習内容であり、興味や関心の高い活動として定着している点も各種の成果物からくみ取ることができる。そして、海洋教育が目指す「海とともに生きる」という理念が生活や日常に根ざした活動の中で確実に反映されていくことが、本年度の活動の様々な場面から表出した。今後も実践の成果を確実に継承し、取組を発展させていく必要があると考える。

③次年度への課題

海洋教育パイオニアスクールプログラムの助成を受けながら進展させてきた本校の海洋教育も3年目を終えたが、今後学校として自立した実践とするため方策を探る時期にきている。具体的には取組にかかる費用の多くが助成金を根拠としており、現状と同じ活動を持続していくことは将来的には困難なことが予想される。次年度より漸次、対費用効果の検証や代替可能な取組の検討を行っていく必要がある。

6. 主な連携機関及び内容

A: ウミガメ保護団体『玉の浦リップルズクラブ』

内 容: ウミガメ保護活動 (第5学年)、大浜クリーン作戦 (全学年)

B: 串本海中公園

所在地: 〒649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田 1157

内 容: 海洋生物の観察ほか (第1, 2, 4, 6学年)

C: 太地町立くじらの博物館

所在地: 〒649-5171 和歌山県東牟婁郡太地町太地 2934-2

内 容: 海洋生物ふれあい体験学習 (第3, 4学年)

D: 南紀シーマンズクラブ

所在地: 〒649-3503 和歌山県東牟婁郡串本町串本 6 3 0

内 容: シュノーケリング体験学習 (第3, 4学年)

海洋生物についての講話 (第1, 2, 3, 4学年)

E: まぐろ体験 CAN (那智勝浦町観光協会)

所在地: 〒649-5335 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町築地 7-8-2

内 容: 海産加工品づくり体験学習

第6学年「マグロの缶詰製作」

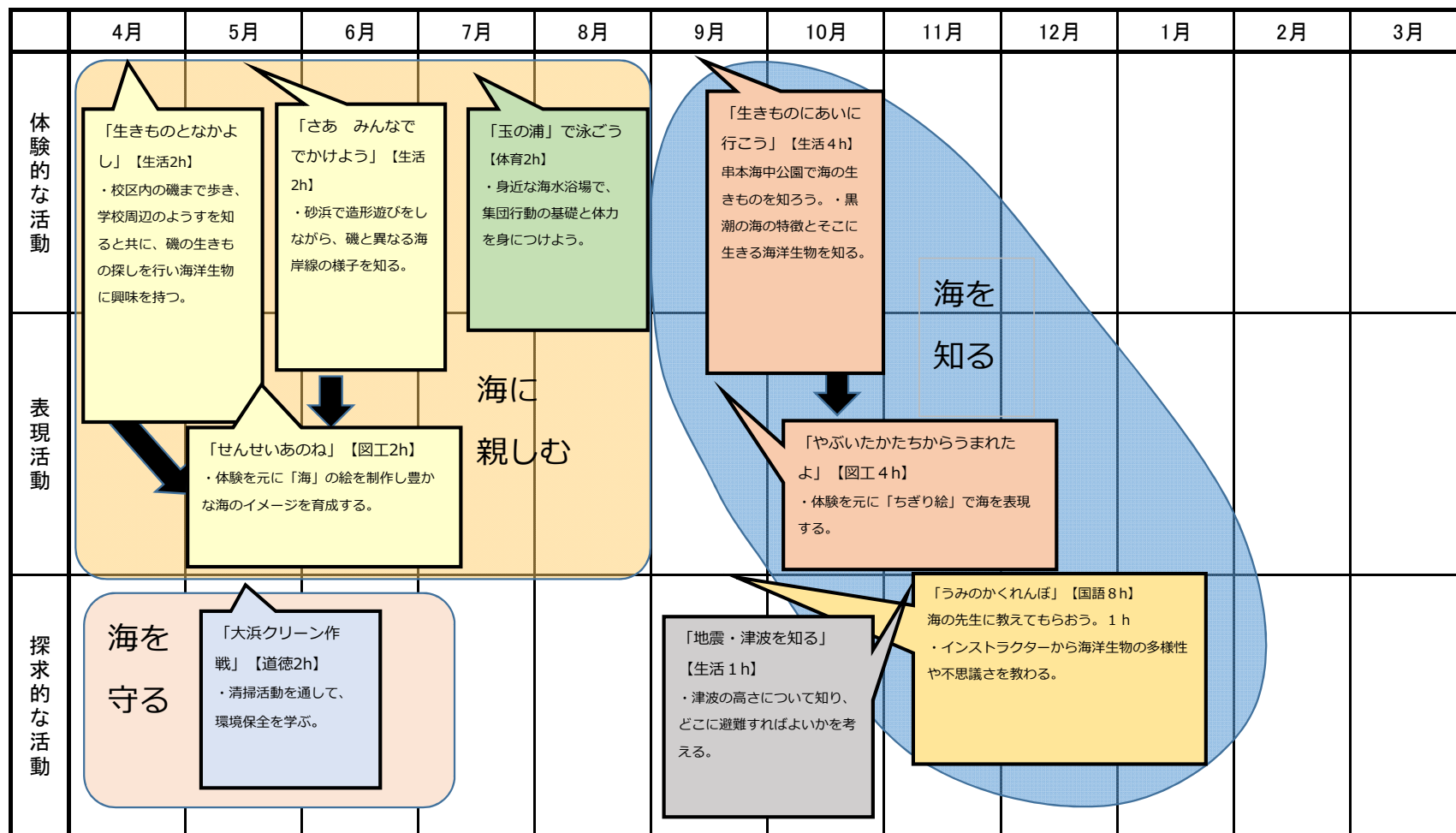
第5学年「干物づくり」

1年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」20時間、生活9時間、道徳2時間、国語8時間、図工6時間、体育2時間 計47時間

目標：海に親しむ活動を通して、海への親近感を高めたり、新たな発見を表現することで児童の世界観を広げる。



2年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」20時間、生活6時間、道徳2時間、国語8時間、図工6時間、体育2時間 計44時間

目標：海に親しむ活動を通して、海への親近感を高めたり、新たな発見を表現することで児童の世界観を広げる。

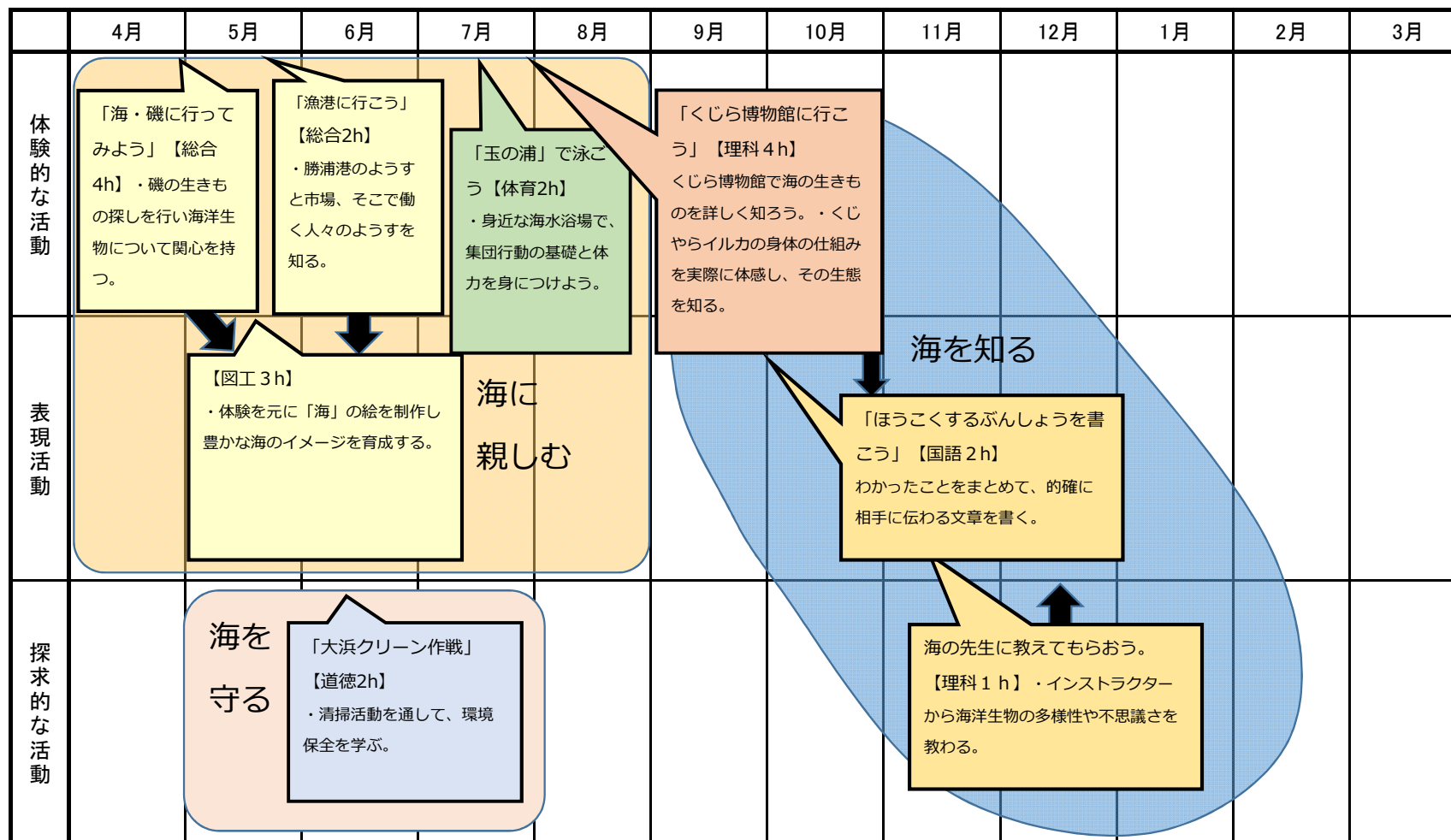
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|--------|---|----|----|--|----|---|-----|---|-----|----|---|----|--|
| 体験的な活動 | <p>「みんな 生きてい る」【生活2h】 ・磯の生きもの探しを 行い海洋生物に興味を 持つ。</p> | | | <p>「どきどきわくわ くまちたんけん」 【生活2h】 ・学校周辺の様子を 知ると共に、磯と異な る海岸線の様子を知る。</p> | | <p>「玉の浦」で泳ごう 【体育2h】 ・身近な海水浴場で、 集団行動の基礎と体力 を身につけよう。</p> | | <p>「みんな 生きてい る」【生 活1h】 串本海中公園で海の生きもの を知ろう。・黒潮の海の特徴 とそこに生きる海洋生物を知 る。</p> | | | <p>「海の先生に教えてもらおう」 【国語6h】 ・インストラクターから海洋生物の多様 性や不思議さを教わる。</p> | | |
| 表現活動 | <p>海に親しむ</p> | | | | | <p>海を知る</p> | | | | | | | |
| | <p>【生活2h】 ・体験を元に「海」の生物を観察カー ドに記録する。海洋生物を知る。 「ていねいにかんさつしよう」【国 語】</p> | | | | | <p>「版画：下里水族館を作ろう」 【図工4h】 ・体験を元に海を集団版画で表現する。</p> | | | | | | | |
| 探求的な活動 | <p>海を 守る</p> | | | | | <p>「ことばあそびをしよう」【国語2 h】 ・海中公園で展示されている生物であ いっせお作文を作る。海洋生物の特徴や生 態について学ぶ。</p> | | | | | | | |
| | <p>「大浜クリーン作戦」 【道徳2h】 ・清掃活動を通して、環 境保全を学ぶ。</p> | | | | | | | | | | | | |

3年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」25時間、総合6時間、道徳2時間、国語2時間、理科5時間、図工3時間、体育2時間、社会1時間 計46時間

目標：海に親しむ活動を通して、海への親近感を高めたり、新たな発見を表現することで児童の世界観を広げる。

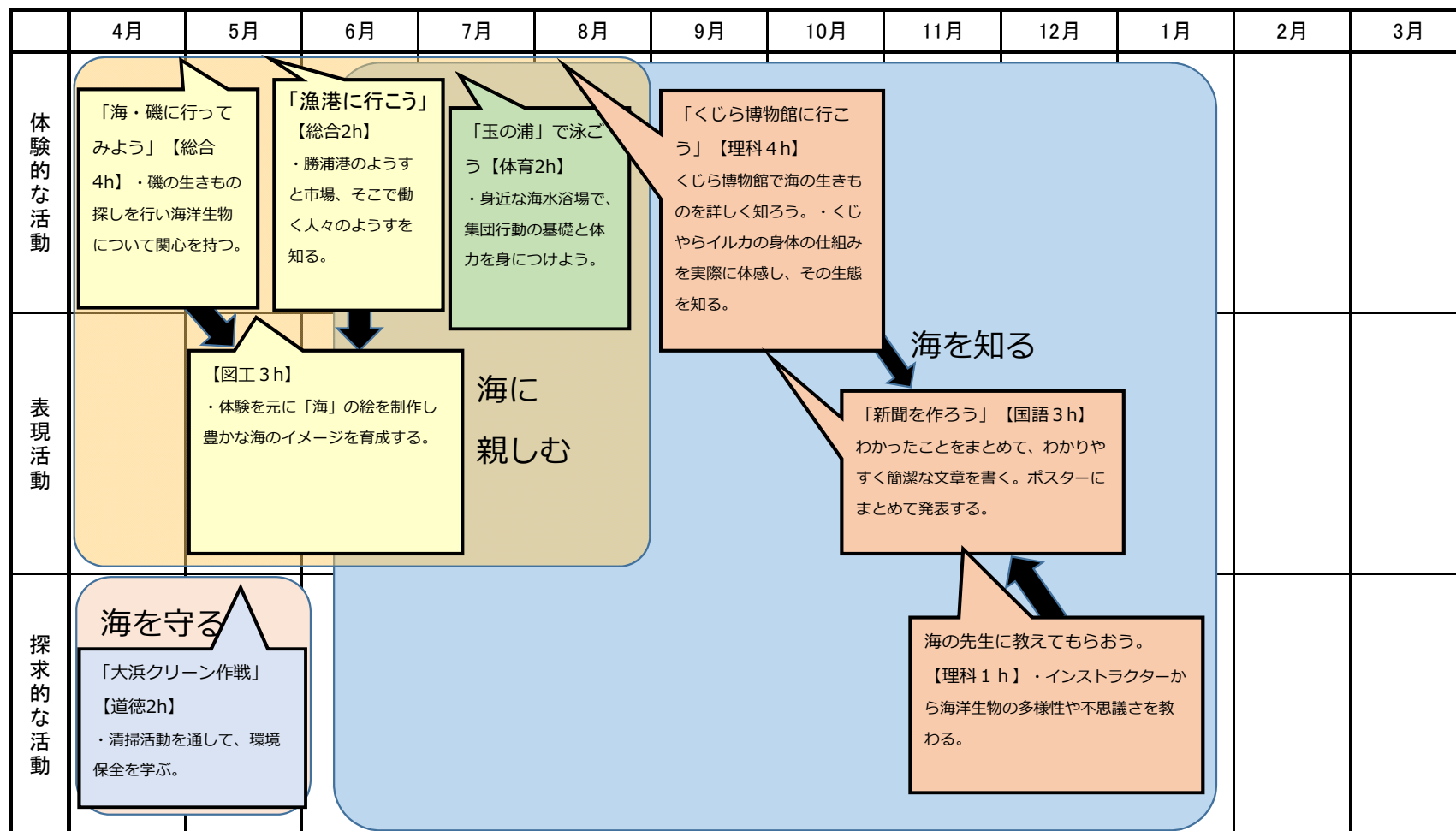


4年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」25時間、総合6時間、道徳2時間、国語3時間、理科6時間、図工3時間、体育2時間、社会1時間 計48時間

目標：海に親しむ活動を通して、海への親近感を高めたり、新たな発見を表現することで児童の世界観を広げる。



5年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」25時間、総合7時間、道徳2時間、国語1時間、理科3時間、図工3時間、体育2時間、社会2時間 計45時間

目標：海に親しむ活動を通して、海への親近感を高めたり、新たな発見を表現することで児童の世界観を広げる。

